



注目ポイント

- ✓先週、日銀は金融政策決定会合で、追加利上げ(政策金利：無担保コール翌日物金利の誘導目標0.25%→0.50%)を決定し、政策金利を約17年ぶりの水準とした。また、来年度のCPI(前年比)見通しを大幅に引き上げて、更なる利上げを示唆した。これを受けて、国内金利は、特に中期債(2年債、5年債)を中心に大幅に上昇し、2008年以来の高水準に達した。一方で、米国ではトランプ大統領が就任即時の関税引き上げを見送ったことが安心感となり、世界的に株式市場が堅調な展開に。
- ✓今週のFOMC(28-29日)では、政策金利の据え置きが見込まれ、焦点は今後の金融政策に対する考え方となろう。先週、トランプ大統領が原油価格の下落を条件に、FRBに利下げを求めると表明したこともあり、FOMC後のパウエル議長の発言に注目が集まる。
(門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2025年1月20日

～

2025年1月24日

市場・指標			1月20日 ～ 1月24日		1月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	40,280	38,644	39,932	+1,481	+3.9%	
	米国	NYダウ(ドル)	44,565	43,313	44,424	+936	+2.2%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	21,521	20,881	21,395	+492	+2.4%	

市場・指標			1月20日 ～ 1月24日		1月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	日本	10年(%)	1.235	1.175	1.225	+0.025	
	米国	10年(%)	4.66	4.53	4.62	-0.01	
	ドイツ	10年(%)	2.60	2.48	2.57	+0.03	

市場・指標			1月20日 ～ 1月24日		1月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		156.75	154.78	156.00	-0.30	
	ユーロ(円)		164.08	160.32	163.68	+3.12	
	豪ドル(円)		98.77	96.67	98.51	+1.71	

市場・指標			1月20日 ～ 1月24日		1月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リト(ポイント)	1,669	1,632	1,661	+17	+1.1%	
	米国	NY原油(ドル)	79.44	74.01	74.66	-3.2	-4.1%	
		NY金(ドル)	2,822	2,749	2,807	+32	+1.1%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年1月27日 ~ 2025年1月31日

● 株式

40千円台定着目指すも、上値重いか

日経平均株価
【予想レンジ】 39,500 円 ~ 40,500 円

- 先週の日経平均は上昇。米中摩擦に対する警戒感が和らいだことが好感され、週初から大幅上昇でスタート。さらに、トランプ大統領が今後4年間で米国内のAI関連のインフラ整備に5,000億ドル(約77兆円)を投資すると発表したことで、ソフトバンクG等ハイテク株が日経平均株価を押し上げた。24日、日銀決定会合の結果が判明した直後には、一時4万280円まで上げ幅を広げる場面もあった。
- 今週の日経平均は、40千円台の定着を目指したいところだが、上値の重い展開を予想。二転三転する米トランプ大統領の関税に関する発言だが、日本もいつ名指しされても不思議ではなく、積極的な買いを手控えさせる面も。ただし注目されるアップル等主要ハイテク企業の決算が好調な内容になると、日本株も連れ高となる可能性も。

● 金利
(国債)

居所を探る展開

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.200 % ~ 1.250 %

- 先週の国内金利は上昇。週央以降は、新聞報道等から日銀の追加利上げが確実視されるようになり、上昇気味に。24日には、予想通り日銀が政策金利を0.50%に引き上げ、また利上げ継続の姿勢を示したことから、債券相場は更に下落。特に中期債(2年債、5年債)を中心に金利が大幅に上昇し、2008年以来の高水準に達した。
- 今週の国内金利は、居所を探る展開となろう。先週の日銀決定会合の声明文が、追加の利上げも示唆した内容であったことが、債券相場の重しとなろうが、次なる0.75%への利上げは日銀にとっても鬼門であり、一定の時間を要すると思われる。イベント通過で、投資家の打診買いも期待できることから、10年国債利回りは1.20%台でのみ合いとなろう。

● 為替
(米ドル)

もみ合いか。ただし急速なドル安に注意

米ドル/円
【予想レンジ】 154.00 円 ~ 157.00 円

- 先週のドル円は、若干円高ドル安が進展。トランプ米大統領の動静では、就任初日に関税導入を見送ったことや、週後半はFRBに対して利下げを要請すると発言したことがドル売り材料になるも、週央には2月からカナダ等への関税を検討していることがドル買い材料に。また、日銀の利上げ(24日)を受けては、日銀が継続的な利上げに意欲的であると評価され、円を買い戻す流れに。
- 今週のドル円はもみ合いか。政策金利の据え置きが見込まれるFOMCは、議長発言が、焦点となろう。先週、トランプ大統領が原油価格の下落を条件に、FRBに利下げを求めると表明したこともあり、注目が集まる。またPCE価格指数(31日)が、弱い結果となれば、米利下げ前倒し観測が高まり、急速なドル安となる可能性には注意。

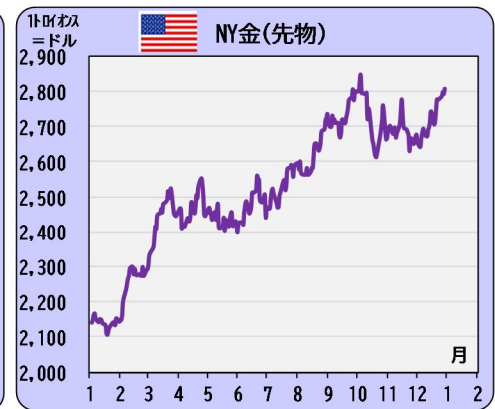
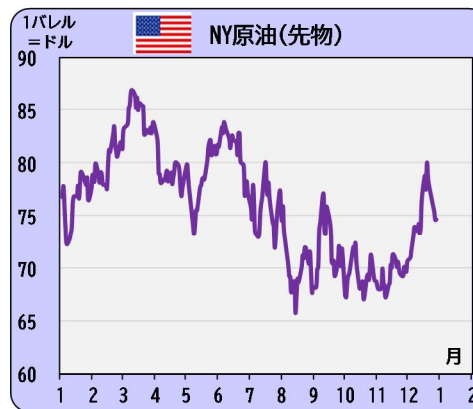
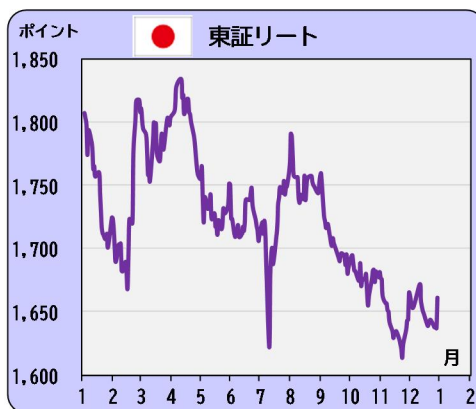
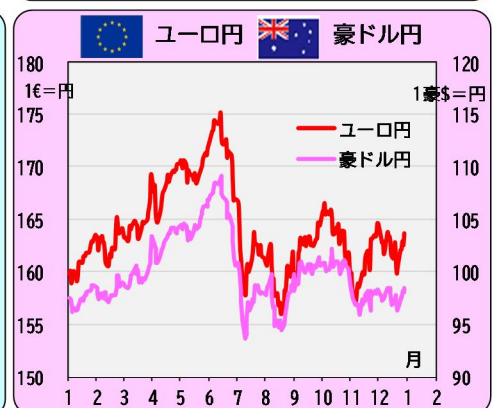
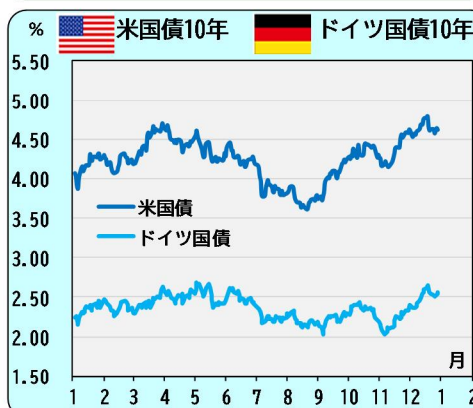
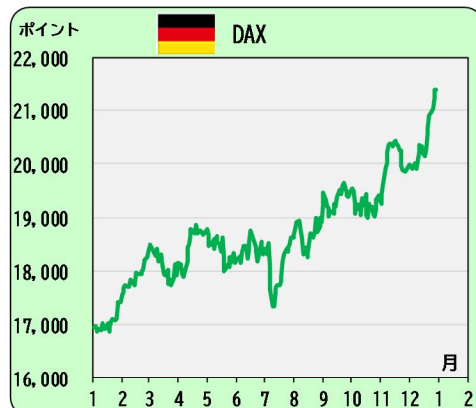
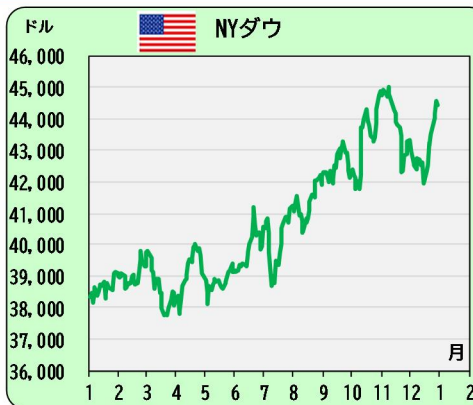
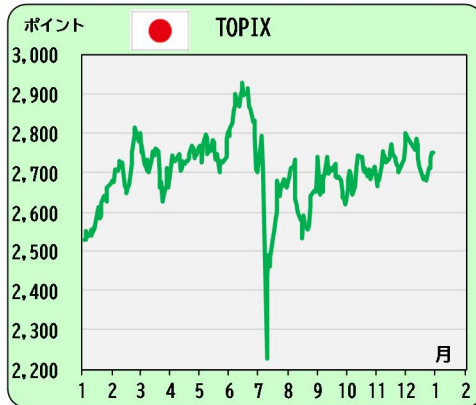


○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
1/27(月)		米国: 新築住宅販売件数(12月)
1/28(火)		米国: FOMC(~29日) 米国: 耐久財受注(12月) 米国: コンファレンスボード消費者信頼感指数(1月)
1/29(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨(12月開催分)	
1/30(木)		EU: ECB定例理事会 米国: GDP(10~12月)速報値
1/31(金)	国債入札(2年) 鉱工業生産指数(12月) 完全失業率(12月) 住宅着工統計(12月)	米国: 個人所得・個人消費支出(12月)

③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- 本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- 本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。